

2021年度 授業改善推進プラン

小19 町田市立高ヶ坂小学校

学力調査等の状況

「全国学力調査」は、算数科での正答率が全国平均は上回ったものの、東京都の平均にはわずかに及ばなかった。解答の傾向で見ると、図形の性質を問う問題や、単位量当たりの量に関する問題の正答率がと平均と大きな開きがあった。国語科は、平均正答率が全国平均・都平均に及ばなかった。観点別に見ると、言語事項に関する問題や、「話す・聞く」に関する問題の正答率が低かった。
「東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、国語科以外の3教科は、東京都平均を2ポイント前後上回ったが、国語科は都平均を下回る結果となった。特に「話す・聞く」に関する問題での正答率が都平均から4ポイント程度下回る結果だった。

見えてきた課題

教科別に見ると、特に国語科に課題があることが分かる。観点別で見ると、漢字や接続詞に関する問題など、言語事項に関する内容(知識・技能に関わる内容)、また目的に応じた話の仕方など「話す・聞く」に関する内容(思考・判断・表現に関わる内容)でも誤答や無解答の児童が見られた。日常の授業においても、「話を最後までしっかり聞く」ことや言語事項に関する指導は各学年の実態に合わせた指導を繰り返し行っているが十分な定着には至っていないのが実情である。
今年度は、校内研究の一環として、各学年で児童の実態を踏まえ、「育てたい資質・能力」を精選し、学年の重点目標を新たに設定し、重点目標達成のために日々の指導を行っている。指導内容の関連を精査し、各教科の単元配置を検討するなど、重点目標に近づけるための効果的な指導を実現していくことが課題である。

授業をデザインする8つの取組について

見通しをもたせる導入	学習の始まりに「めあて」を提示することで、見通しをもって学習を進められるようにする。
価値ある対話の共有	一人一人の考えを出し合い、教師が発言を価値付けることで、互いの考えを共有させ、深い理解へ結びつける。
ICT機器の活用	児童各自がタブレット端末を活用し、共同編集しながら互いの意見を共有できるよう、ジャムボードの活用をすすめる。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	○場面や目的に応じた言葉遣いや言い回しを提示し、適切な言葉選びができるようにする。 ○学習過程にそって授業を計画し、目標を明確にしながら学習活動を行うことで、話す聞く、書く、読む力を高める。 ○学習意欲を高められるような言語活動を設定し、見通しをもって活動できるようにする。	○話す、聞くの学習では、話し方のお手本を掲示して、全員が自分の考えを相手に話すことができるようにする。 ○主語と述語がある文に、理由を付け加えて発表する機会を日々設ける。(朝の会、帰りの会のスピーチなど) ○日頃から、読書の時間を多く取り、様々な本に触れる機会をつくる。	○授業の中で言葉の指導を丁寧に行う。話し合い活動や日直のスピーチ、作文指導を充実させ、言葉の選び方について実感できるようにさせる。 ○単元のはじめに、学習計画づくりをすることで、ゴールイメージをもち、見通しをもって活動させる。	○授業の中で、自分の考えを適切に伝えられるように、自分の考えを整理する時間を設けたり、互いの考えを比べながら聞く視点を設けたりする。 ○言語事項に関する指導を日常的に行い、児童の言語に関する理解を定着させる。また、熟語やことわざ、慣用句などの学習の充実を図り、児童の語彙力を豊かにする。
社会科	○興味関心をもちやすい資料の選択や提示の仕方を工夫する。その際に共通点や関連のある言葉などを意識的に取り上げ、児童が視覚的に捉えやすいようにする。 ○児童が資料から読み取ったことを発言する場や共有する場を設定し、児童の気付きを全体に広げながら学習を進めるようにする。 ○ICT機器を活用し、情報を集めたり得た情報を提示したりして、児童が考えをまとめ、表現する場を設定する。	(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○自分の住んでいる地域の町へのインタビューを通して、自分の住んでいる地域で働く人や仕事に興味、関心をもたせる。	○身近なものを実感をともなって理解できるように、資料の提示を工夫したり、見学をしたりする。また地図指導を充実させる。 ○新聞にまとめたり、クラスで白地図にまとめたりする活動から、学習したことを共有できるようにさせる。 ○クロームブックを活用して、児童が調べたり、表現したりする場を設定する。	○児童が興味関心をもてるような資料選びをしたり、提示の仕方を工夫したりする。 ○児童が課題を見つけた時、課題解決に向けて情報を読み取ったりすることができる資料選びを行う。 ○ICT機器を活用することで、資料を焦点化したり、意見の共有をしたりできるようにする。 ○学習したことをまとめる方法を工夫し、定着につなげる。
算数科	○毎週水曜日、活用スケジュールをもとに計画的に「東京ベーシックドリル」を実施し、児童の理解や定着の度合いを確認する。個別指導や家庭学習で、より確実な習得を目指す。 ○各単元の前に、必ず毎回プレテストを実施し、児童の学力を担任・少人数担当で把握する機会をつくることで、個に応じた指導の充実につなげ、学習意欲と学力の向上を目指す。	○くりあがりのあるたし算、くりさがりのあるひき算、かけ算など、四則計算の基本を定着させるために、具体物操作やプリントでの計算練習をさせる。 ○単元前のプレテストや学習後のワークテストを学習指導に生かす。	○東京ベーシックドリルを計画的に活用し、授業の補助教材として扱う。一人ひとりの学習の定着をみとり、授業での指導に活かしていく。 ○単元ごとにプレテストを行い、三段階の習熟度別に授業を行う。人数調整をしながら、より細やかな個別に配慮した指導ができるようにする。	○週1回のベーシックドリルの時間において、授業で扱っている内容に関わりのある部分を意図的に選び問題を解かせることで、学習内容の定着を図る。 ○単元前のプレテストによって三段階の習熟度別少人数クラスに分け、ひとりひとりの学習の定着を図る。個人差が大きいので、可能な限り具体物を使って体験的な学びをさせる。
理科	○実験や観察など、体験的な学習を多く取り入れ、児童の思考を促すような発問の工夫をし、観察記録、実験結果などのデータと現象とを関連付けて考え、自分の考えをもち、発表できる場を設ける。 ○ICT機器を活用し、資料提示や児童同士の意見交換の場を充実させる。	(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○あさがおやミニテストを育てる際に、観察の視点を絞って指導する。 ○おもちゃづくりや、様々な遊びを通して、必要なものと考えたり、結果を予想したりする力を伸ばす。	○授業で学習したことを生かして、生き物を実際に育てる中で、気づきを大切にし、体験的に学べる場を設定することで、理科への興味・関心を高め、自発的な学びができるようにする。 ○季節ごとの観察を通し、四季の移り変わりや変化に気づけるようにさせる。ICTを活用しながら、観察に活かしていく。	○条件制御をするための実験方法を考えさせ、課題を明確につかむ。 ○観察や実験を行った際には、考察をさせることで結果と考えを結び付けられるようにする。 ○ICT機器を活用し、観察や実験の不足を映像資料で補足したり、感染症対策を踏まえて教師実験をして児童の理解を促したりする。